

風の子通信

2025年度4版

2025年12月



夏の猛暑がやっと過ぎ、一気に紅葉が広がったかと思ったら、いっぱい落ち葉に囲まれるようになりました。2025年もあとひと月ですね。

11月に開催したワークショップの様子を報告させていただきます。



第9回 風の子ワークショップ 保護者の経験から ー不登校の選択肢としてー

2025年11月5日(水)に、第9回風の子ワークショップを開催しました。今回は、片野千種さんにお子さん5人の子育て体験をお話いただきました。5人のお子さんはそれぞれ個性的であり、5人とも風の子デイサービスに通所していただいたことを思い出しながら貴重なお話を聞かせていただきました。風の子で関わらせていただいてから15年。ご長男の頃には発達障害に関する理解がなかったり、支援体制が構築できなかったことなど、時代背景を感じるお話でした。

また、末子の小学6年生のお子さんが、学校への登校しづりを起こされたことから、現在通所されているフリースクールを選び、来年には県立友部東特別支援学校の入学を決められたという進路に関しても詳しくお話しいただきました。お子さんが不登校と同時にまばたきチックが頻発し、「おかあさん、まばたきで前が見えないよ」と訴えられたなど、具体的な辛い体験なども伺えました。



片野さんのお話に続き、不登校の選択肢として、片野さんの息子さんが通所されているフリースクール「エーぱいんと」の増子春江先生、通所している児童の中学校と連携して通所日を学校の登校日になるように働きかけた放課後等デイサービス「サファリア 学びの支援教室」の庄司郁子先生、今年から学びの多様化学校として文科省の認定を受けている不登校児童に特化した小学校「リリーガーデン小学校」の石井創世先生に、それぞれの施設での活動内容等をご紹介します。

どの施設でも、子供達の居場所としてひとりひとりの子供に合った支援を提案されており、学校という枠とは別に子供が安心できる生活を提供するためのご苦労や配慮がありました。



参加者の方からたくさんのアンケートのご回答をいただきました。一部を抜粋してご紹介いたします。

○ 不登校の子が増えているので、居場所があることがわかって良かったです。発達の特性が強いために学校に適應できない子もいるので、他にも事業所等があれば紹介していただきたいです。関係機関や保護者にぜひ聞いてほしい内容だと思います。

○ 片野さんの5人の子育てについてとても参考になりました。支援しているお子さんが最近不登校になってしまいましたが、学校の先生が原因だったようで、まったく学校での支援体制がなく対応に困っていました。学校に変わる居場所が少ない地域ですが、視野を広げて色々と考えていきたいと思いました。ありがとうございました。

○ 不登校児童支援に関し、資源の少なさや関係機関との連携に壁を感じていましたが、選択肢や取り組みを知ることができて今後の可能性を感じました。前向きになることができました。

○ 母として、大変なのは自分だけじゃない、頑張りすぎなくていいんだと勇気づけられたお話が聞いて良かったです。

○ 子供が不登校になって悩む親の気持ちを聞くことができて、とても参考になりました。どのような流れでフリースクールや放課後等デイサービスを利用できるようになるかイメージしやすかったです。学校関係者にもこのような情報を聞いてもらえると、いろいろ進んでいくのではないかと感じました。貴重な講演会を開催していただき、ありがとうございました。

